

## 令和6年度 事業報告

令和6年度はパリオリンピック・パラリンピックが開催され、パラアスリートたちの活躍やそれを伝える各種メディアにより、障がい者スポーツへの関心が高まり、社会に多くの感動と勇気を与えた。

その一方で、本道では、当協会が主催する各種大会へのエントリー数が、かつてに比して低調気味となっている。これには、コロナ禍によるスポーツ活動の停滞に加え、長くスポーツに取り組んできたベテランが加齢などを理由に大会から退くのに対し、若年層からの新規参加者が少ないことが考えられる。こうした状況の改善には、スポーツ未実施層への導入も含めた障がい者スポーツの普及と、スポーツ環境の整備により、障がい者のスポーツ実施率の向上を図ることが急務である。

近年は、地域内でスポーツに取り組む若手アスリートの中から、パラリンピアン発掘事業「J-STARプロジェクト」（日本パラスポーツ協会主催）などを経て、強化選手や育成選手に指定され、より競技性の高いステージに進む者もある。このように地域でスポーツに出会い、取り組み、そこからトップアスリートを目指す彼らがロールモデルとして、本道における障がい者スポーツ普及の呼び水となることにも期待をしたい。また、そこに関わる指導者の存在も、非常に重要である。

当協会では、本年度も、競技力向上と普及の両輪の取り組みにより、障がいのある人の健康と、スポーツを通じた心豊かなライフスタイルをサポートし、本道における障がい者スポーツの推進と参加機会の拡充に努めた。

### I 大会開催等の事業（公益目的事業1）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

#### 1 大会開催事業

##### (1) 第62回北海道障がい者スポーツ大会

身体障がい者及び知的障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させるとともに、障がいに対する道民の理解を深め、本道における障がい者のスポーツをより発展させることを目的として開催した。

本年度の大会は、9月に十勝管内の3市町で開催し、全道から約240名の選手が全3競技に参加した。当初は6競技を実施する計画であったが、参加募集の結果、団体の3競技が競技成立に必要なチーム数のエントリーがなかったことから、残る3競技のみの開催となった。

依然として参加選手数の低迷は続いているが、帯広市で実施した陸上競技には、前回大会に比して約3割増の参加があるなど、回復傾向が見られたほか、開催地となった十勝管内からの参加が、全体の2割超と多くを占め、本大会の持ち回り開催の意義が果たされている。

また、今大会では陸上競技において、「選手間の交流」、「障がい者スポーツの理解促進」、「共生社会実現への機運醸成」などを目的に、公開種目としてユニバーサルリレーを初めて実施した。ユニバーサルリレーとは、異なる障がいのランナーによる4×100mリレーで、2020東京パラリンピックから正式採用され、パラリンピックの精神の一つでもある「多様性」と「調和」を象徴する種目であるとして話題となった。本大会においても、複数の地元メディアが取り上げるなど、大きな反響があったことから、今後も継続の方針である。

- 開催年月日 令和6年9月29日(日)
- 開催市町村 帯広市・音更町・芽室町・新得町・中札内村・池田町
- 参加人数 選手239人 引率役員等103人 合計342人

実施競技	競技会場	開催月日	参加選手数
陸上競技	帯広の森陸上競技場(帯広市)	9/29	199人
バスケットボール	サンドームおとふけ(音更町)	9/29	15人 [2チーム]
車いすバスケットボール	芽室町総合体育館(芽室町)	9/29	25人 [3チーム]
サッカー	スポーツ芝生公園(新得町)	9/29	競技不成立
ソフトボール	札内川総合運動公園ソフトボール場(中札内村)	9/29	競技不成立
フットソフトボール	池田町河川パークソフトボール場(池田町)	9/29	競技不成立
計			239人 [5チーム]

## (2) 第44回北海道障がい者冬季スポーツ大会

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図り、希望と勇気を持って社会に参加するとともに、道民の共感を呼び起こさせ、共生社会の理念の浸透を促進させることを目的として開催した。

本年度はウィンタースポーツの盛んな旭川市において、37年振り2回目の開催となり、大会運営の事務局を市が担い、旭川スキー連盟の全面的な協力のもとに実施した。

障がい者スキーとしては、道内で唯一、アルペンスキーとクロスカントリースキーの両競技を実施する本大会は、選手の障がいの程度や競技力に応じて出場するランクが選択でき、伴走者との出場も可能であることから、初心者にも参加がしやすく、重度の障がい者の参加のほか、国際大会への出場経験のある上級者の参加もあるなど、幅広い層が満足できる本大会の開催意義は大きい。

- 開催年月日 令和7年2月16日(日)
- 開催地 旭川市
- 参加人数 選手49人 引率役員等40人 合計89人

実施競技	競技会場	参加選手数
大回転競技 (Aランク500m Bランク400m Cランク300m)	カムイスキーリンクス 白樺1コース	20人
距離競技 (Aランク3000m Bランク1000m Cランク500m Dランク150m)	カムイスキーリンクス 距離競技特設会場	29人
計		49人

## (3) はまなす車いすマラソン2024

北海道マラソンとの合同開催が10年目を迎えた本年度の大会は、晩夏の爽やかな天候にも恵まれ、ハーフマラソンには、道外からも多くの選手の出場があり、国内のトップランナーが激しく競い合い、札幌駅前通で行われたショートレースでは、重度障がいのある選手も伴走者とともに出場するなど、選手はそれぞれのベストを尽くし、沿道の市民からは惜みない声援が送られた。

本年度は、開催直前のパリパラリンピック出場を控えた選手の出場があったほか、ハーフマラソンへの最年少出場となった道内選手が、初出場ながら見事完走を果たすなど、大会を大いに盛り上

げた。また、スタート地点の計時センサーは北海道マラソンと共用で、路面に敷設されるが、そのために生じる凹凸について局限する対策が取られるなど、特にショートレース出場者に配慮した環境が整えられた。

本大会の開催により、障がい者がお互いの理解と親睦を深め、社会に参加する意欲を喚起させるとともに、広く道民に対し、障がいへの理解と、障がい者スポーツの振興及び共生社会の理念の浸透を促進する1日となった。

- 開催年月日 令和6年8月24日(土)選手受付・説明会/25日(日)競技・表彰式
- 開催地 札幌市(日本陸連公認「はまなす車いすマラソンコース」ほか)
- 参加人数 選手105人 役員等4,400人 合計4,505人

実施競技	競技コース	参加選手数
ハーフマラソン(公認コース) 21.0975 km	大通西4丁目スタート 新川西1-1(新川通)フィニッシュ	37人
ショートレース(オープン競技) 1 km・2 km	大通西4丁目スタート～南大通折り返し～ 北3条折り返し～フィニッシュ	68人
計		105人

#### (4) 競技別スポーツ大会(主催・共催)

スポーツ実施率の向上には、まずはそれを楽しみ、生活が豊かになることが求められるが、各大会は、障がい者が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進、機能回復を図り、参加者との交流を深める好機となっている。

一方で、競技力向上も欠かすことのできないスポーツの要素である。タンデムサイクリングを除く6大会は、全国障害者スポーツ大会の予選会を兼ねており、大会を定期的に継続して開催することは、本道における競技レベルの向上を図る上で重要であるばかりではなく、競技運営を担う各競技団体にとっても、障がい者スポーツ特有のルールを学び、研鑽を積み、障がい者への理解を深める貴重な機会となっている。

大会名・開催日・会場	参加選手数
第39回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会 令和6年6月23日(日) 月寒アーチェリー場(札幌市)	11人
第25回北海道ボッチャ選手権大会(共催) 令和6年8月18日(日) 道立野幌総合運動公園(江別市)	53人
タンデムサイクリング大会 令和6年8月25日(日) セラミックアートセンター(江別市)	15人
第35回北海道障がい者水泳大会 令和6年9月8日(日) 平岸プール(札幌市)	62人
第30回北海道障害者フライングディスク大会(共催) 令和6年9月29日(日) つどーむ(札幌市)	105人
第36回北海道障がい者ボウリング大会 令和6年10月20日(日) GiGOボウル イオン札幌手稲駅前SC(札幌市)	33人
第36回北海道障がい者卓球競技大会 令和6年11月17日(日) 札幌市身体障害者福祉センター	114人

## 2 大会派遣事業

### (1) 第23回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

佐賀県のSAGA サンライズパークをメイン会場として、10月26日からの3日間の会期で行われた第23回大会に、選手団121名を派遣し、選手78人が個人7競技と団体1競技の計8競技に出場した。北海道選手団のメダル獲得総数は、前年を上回る68個に達し、全国の舞台における目覚ましい躍進となった。

5月に実施した強化合宿では、選手とスタッフが起居をともにしながら、選手団としての団結力を深め、個人面談やスタッフミーティングにより、選手の健康状態やADLの状況を共有し、サポート体制を確立した。

北海道からの出発日には、新千歳空港内で結団式を行い、多くの人々が行き交う中で、障がい者スポーツと北海道選手団の存在をアピールした。

全国大会に派遣する選手は、北海道障がい者スポーツ大会をはじめ、全道規模の各競技大会に出場した選手を対象に、記録や選考基準を基に選ばれることから、選手は全国大会出場を目標に、全道大会での好成績を目指して、日々のトレーニングが習慣化するという好循環を生み、全国大会出場というかけがえのない経験は、選手にとって大きな自信として、スポーツ継続への高いモチベーションにもなるなど、その後の生活にも生かされ、出場選手のQOL向上という相乗効果もある。

#### ■強化合宿 道立野幌総合運動公園（江別市）

第1班 令和6年5月10日(金)～12日(日) 水泳・アーチェリー・卓球・ボッチャ・ボウリング

第2班 令和6年5月24日(金)～26日(日) 陸上競技・フライングディスク

#### ■選手団派遣

令和6年10月24日(木)～10月29日(火) 佐賀県 選手78人・スタッフ43人

#### ■大会開催

令和6年10月26日(土)～28日(月)

#### ■出場競技

競技名	競技会場	出場選手数	メダル獲得数
陸上競技	SAGA サンライズパーク SAGA スタジアム(佐賀市)	28人	35個
水泳	SAGA サンライズパーク SAGA アクア (佐賀市)	10人	13個
アーチェリー	鹿島市陸上競技場 (鹿島市)	2人	0個
卓球	基山町総合体育館・基山町民会館 (基山町)	11人	10個
フライングディスク	伊万里市国見台陸上競技場 (伊万里市)	11人	9個
ボッチャ	U-Spo (嬉野市)	2人	1個
ボウリング	ボウルアーガス (佐賀市)	5人	0個
バレーボール(聴覚)	SAGA サンライズパーク SAGA アリーナ (佐賀市)	9人	0個
	計	78人	68個

#### ■派遣選手選考委員会（第24回全国障害者スポーツ大会「滋賀県：R7.10.25～27」）

令和7年2月5日(水) かでの2・7会議室 出席委員11名

## II 指導者育成等の事業（公益目的事業2）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

### 1 指導者育成事業

#### (1) 障がい者スポーツ競技指導者研修会

9月に開催する北海道障がい者スポーツ大会の競技運営を担うこととなった競技団体の審判員を対象に、指導者研修会を実施した。北海道障がい者スポーツ大会の実施競技は、個人・団体あわせて6競技あるが、障がい者スポーツ特有のルールやジャッジが複雑な競技、一般に普及が遅れている競技をあらかじめ特定し、研修を行った。

十勝陸上競技協会の会員を対象とした陸上競技の研修会は、帯広の森陸上競技場で2回開催した。1回目の研修会は7月に座学を中心とし、2回目の研修会は北海道障がい者スポーツ大会の前日に、競技規則や障害区分などについて競技場内で研修を行った。

車いすバスケットボールの研修会は、北海道バスケットボール連盟の都合により、大会開催地ではなく、美瑛市で行われたピバオイカップ車いすバスケットボール大会を活用し、より実践的に実施した。また、フットソフトボールの研修会は、池田町ソフトボール協会の審判員を対象に実施する予定であったが、9月に開催する北海道障がい者スポーツ大会の同競技が、競技不成立となったことから中止した。

##### ■研修会実施状況

研修会名	研修実施日	研修会場	研修者数
陸上競技審判研修会	令和6年7月6日（土） 令和6年9月28日（土）	帯広の森陸上競技場	23名 25名
車いすバスケットボール 競技審判研修会	令和6年8月31日（土）～9月1日（日）	美瑛市総合体育館	9名
フットソフトボール 競技審判研修会	※開催中止		

#### (2) 初級パラスポーツ指導員養成講習会

日本パラスポーツ協会が公認する初級パラスポーツ指導員の養成講習会を、有資格者の増員を図るため3日間の日程で開催し、道内各地から21名が受講した。

初級パラスポーツ指導員は、それぞれの地域において、主に障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員であり、スポーツ現場におけるサポートを行う役割を担い、資格取得後の活動実績に応じ、中級の受講資格ができるなど、順次ステップアップできる制度になっている。

本講習会の実施により、本道の障がい者スポーツにおいて、必要な人材の養成と資質の向上が図ることができた。受講者の今後の活躍が期待される。

■開催年月日 令和6年11月8日（金）～10日（日）

■開催地 札幌市（北海道青少年会館コンパス）

■受講者数 21名

■講習内容 全21時間（講義・実技）

## 2 普及啓発事業

### (1) 障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入れるための契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施した。

本年度は、13の教室に313名が参加したが、参加意欲は総じて高く、教室の実施により、地域に根差したスポーツ活動の発展に寄与している。

このスポーツ教室は、当協会が教室開催に係る経費を負担の上、地域で活動する障がい者団体や支援学校等が実施主体となり、地域のニーズに応じた競技種目に取り組む事業であり、年度当初に教室の実施団体を募集し、提出された事業計画や予算を精査した上で教室の開催を決定するとともに、教室の運営全般を実施団体に委ねているため、地域の実情に応じた事業の展開が図られている。

#### ■スポーツ教室開催状況

対象競技	教室実施日	教室会場	参加者数
バドミントン	令和6年6月9日	名寄スポーツセンター	73名
水泳(2回)	令和6年6月23日	網走市民健康プール	20名
	令和6年7月4日		20名
ふまねっと(3回)	令和6年10月9日	北見市総合福祉会館	12名
	令和6年11月13日		12名
	令和6年11月27日		12名
健康スポーツストレッチ	令和6年11月4日	新ひだか町地域交流センター	26名
ボウリング	令和6年11月15日	網走ヤングボウル	11名
	令和6年11月18日		11名
ボウリング	令和6年11月30日	GiGO BOWL 室蘭	26名
ボウリング	令和7年1月12日	帯広スズランボウル	30名
ボウリング	令和7年1月12日	網走ヤングボウル	29名
ボッチャ・ゲーリング	令和7年2月15日	登別市総合福祉センター	31名
合計			313名

### (2) 障がい者スポーツ用具の貸出

障がい者スポーツ活動等を行う団体やグループまたは個人を対象に、地域における障がい者スポーツの理解や促進、更なる活性化につなげることを目的として、スポーツ用具の貸出を行った。

本年度は、13件延べ85点を貸出した。競技用車いす(バスケットボール及び陸上競技用)やボッチャボールセットをはじめとする障がい者スポーツ用具は、一般に高額な場合が多いが、無料で貸出しにより、初心者にも取り組みやすい環境が整備され、障がい者スポーツの普及が図られた。

### (3) 会報紙の発行

当協会の事業内容や活動状況などの情報発信を行うことを目的として、会報紙「飛躍」を隔月で年6回発行した。発行部数は500部で、当協会の活動に賛同し、ご支援いただく賛助会員や協力団体が定期購読しており、日本郵便の承認を受けた第三種郵便物として配送をしている。

会報紙では、大会開催などの各種事業を中心に、写真を多用した読みやすい構成で、タイムリーに活動内容を報告した。また、当協会と賛助会員の信用と信頼を繋ぐ大切なツールでもあり、大会開催などの各種事業を中心に、活動内容を報告するとともに、継続会員及び新規会員のご芳名は速やかに紙面において公示して謝意を表した。

#### (4) ホームページの運用

当協会の活動内容や最新の障がい者スポーツ情報をリアルタイムで発信することを目的として、ホームページを運用した。スポーツ事業情報や財務諸表などの情報公開は、継続的なデータ更新に努めるなどサービスの向上を図り、ユーザーの多様なニーズに応えた。

また速報性の高いSNSについて、Facebookに加え、本年度よりX（エックス）の運用を開始し、ホームページとの連動を図りつつ、幅広い層に対する広報に努めた。

### 3 団体助成事業

#### (1) 障がい児者スポーツ団体助成

道内の障がい者スポーツ団体の活動がより活性化することを目的に、北洋銀行の協力及び道の補助金により、道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的として実施し、今年度は19団体に各10万円の、総額190万円を助成した。

障がい児者スポーツの推進には、活動の母体となる団体の活性化が重要であるが、多くの団体で財政基盤が脆弱であり、安定的な活動資金を確保することが困難な状況にある。本年度の助成の対象となった各団体からは、活動完了後に、助成金を有効活用した内容の事業報告書が提出された。

##### ■助成先団体（助成額：各10万円）

No.	北洋銀行助成金	北海道補助金
1	北海道パラカヌー協会（京極町）	スペシャルオリンピックス日本・北海道（札幌市）
2	TEAM COMRADE（東川町）	北海道チェアスケート協会（札幌市）
3	999AC旭川（旭川市）	Team Paramount Adventure（札幌市）
4	動・夢・舞（札幌市）	特定非営利活動法人ともにK.S.C Juntos（倶知安町）
5	パラ・スポinえべつ実行委員会（江別市）	北海道チャレンジサッカー連盟（札幌市）
6	特定非営利活動法人 札幌NFC（札幌市）	北海道障害者スキー連盟（札幌市）
7	北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ（札幌市）	北海道FIDバスケットボール連盟（札幌市）
8	神威（旭川市）	シーガル・サッカークラブF.I.Dドリーム（札幌市）
9	北海道ゴールボールmina・RICCA（札幌市）	特定非営利活動法人 札幌NFC（札幌市）
10		北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ（札幌市）

### 4 表彰事業

#### (1) 特別賞

2024年3月にトルコのエルズルムで開催された「第20回デフリンピック冬季大会」と9月にフランスで開催された「2024パリパラリンピック」において、メダルを獲得した道内ゆかりの各選手

の榮譽を讃え、当協会から特別賞を授与した。

当協会の特別賞は、障がい者スポーツ競技において顕著な成績をあげた個人及び団体に贈られる賞で、今年度は、デフリンピックのフットサルで銀メダルを獲得した折橋正紀選手、東海林直広選手、野寺風吹選手と、パラリンピックの車いすラグビーで金メダルを獲得した池崎大輔選手の計4名に、それぞれ表彰状と記念のトロフィーが贈られた。

■受賞者

氏名	主な成績	備考
折橋 正紀	第20回デフリンピック冬季大会 フットサル 銀メダル	道高等ろう出身
東海林直広	第20回デフリンピック冬季大会 フットサル 銀メダル	札幌学院大出身
野寺 風吹	第20回デフリンピック冬季大会 フットサル 銀メダル	旭川北高出身
池崎 大輔	2024 パリパラリンピック 車いすラグビー 金メダル	岩見沢高養出身

※いずれも道外在住

### Ⅲ 管理部門

#### 1 会務状況

##### (1) 監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和6年4月23日	かでの2・7 事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度事業報告及び決算</li> <li>理事の職務の執行</li> </ul>

##### (2) 理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和6年5月17日	かでの2・7 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回理事会 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度事業報告の件</li> <li>令和5年度決算書類の件</li> <li>団体助成事業に係る助成先団体の選定の件</li> <li>令和6年度定時評議員会の招集の件</li> </ul> </li> </ul>
令和7年3月11日	かでの2・7 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回理事会 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度収支補正予算書の件</li> <li>令和7年度事業計画書及び収支予算書等の件</li> </ul> </li> </ul>

##### (3) 評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和6年6月17日	かでの2・7 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定時評議員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度決算書類の件</li> <li>評議員1名補欠選任の件</li> <li>理事2名補欠選任の件</li> </ul> </li> </ul>